

春秋座 SSS登録用講習会案内

1. 挨拶

舞台に入る時は挨拶等声を出す。

2. 服装

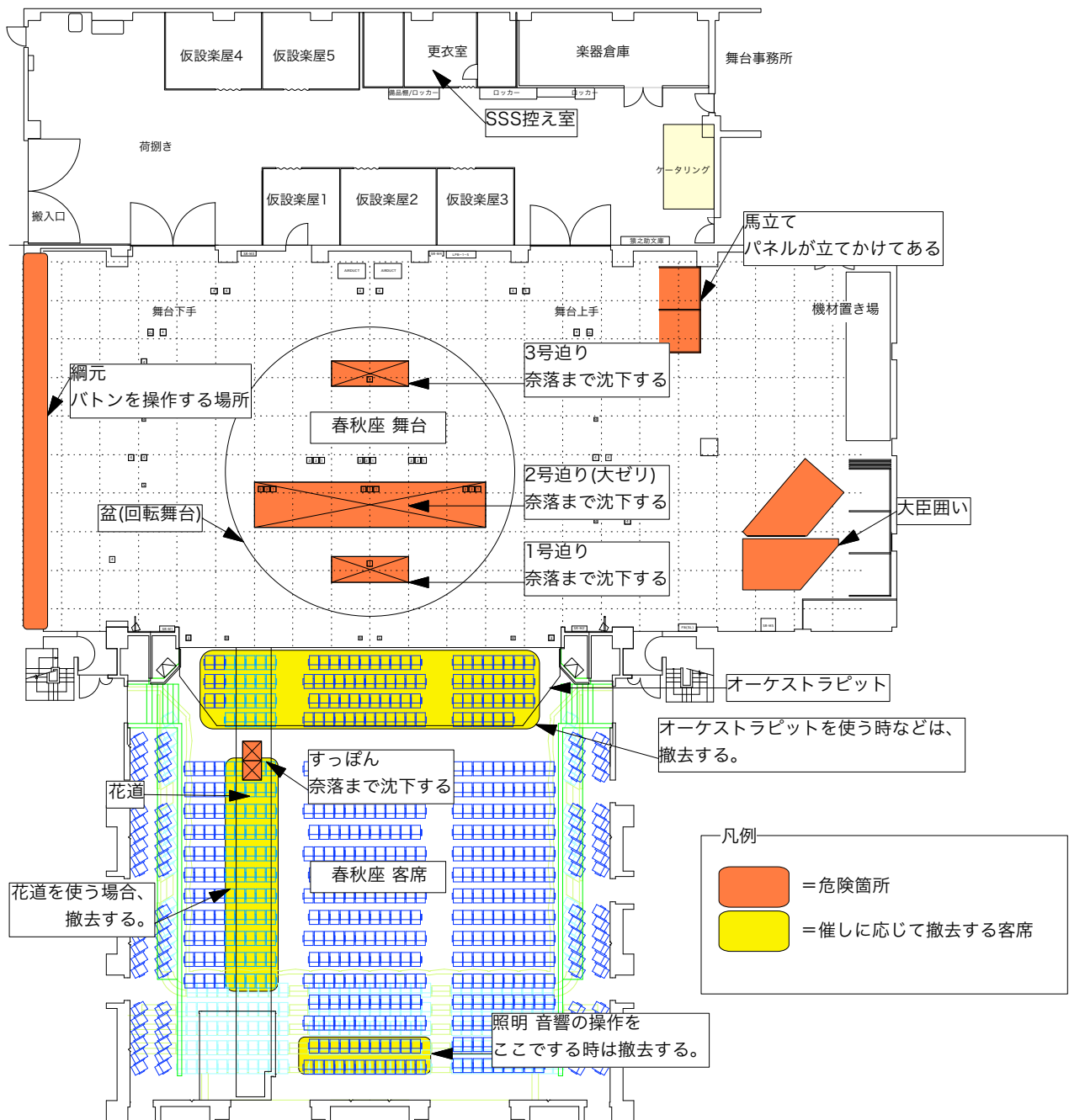
作業をしやすい服装を心がけ、安全靴を着用する。

バトンなどの吊り物やセリなどの機構を使った作業時は、ヘルメットを着用する。

3. 危険箇所

舞台には、綱元、迫り(せり)、馬立て、大臣囲いなど危険な場所がある。

下記図面参照のこと。



4. 舞台備品

幕類



舞台は、客席から見て右側を上手、左側を下手と呼び、袖幕(そでまく)や文字幕(もんじまく)で客席から見える空間を区切る。

袖幕 縦長の黒幕。舞台の両端にあり、舞台の幅(間口)を調節して、客席からの見切れを隠す。

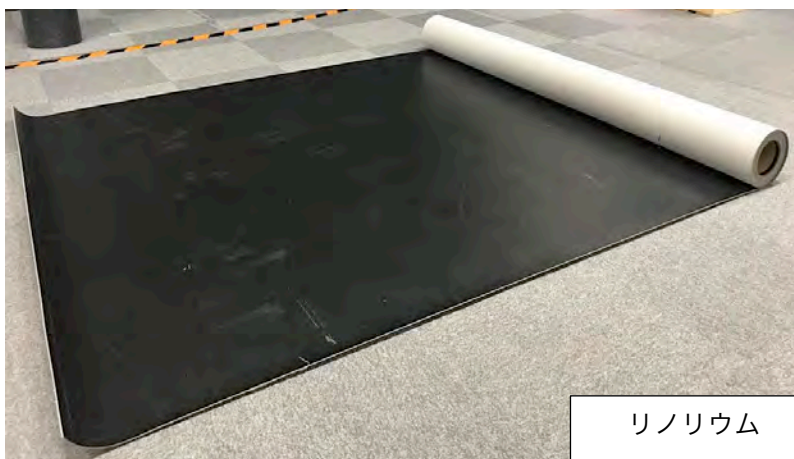
文字幕 横長の黒幕。舞台の上部にあり、舞台の高さを調節して、吊られた照明器具や装置などを隠す。



幕類は、紐(ちち紐)がついていて、蝶々結びでバトンに固定する。

床材

舞台床には、用途に応じてリノリウムやパンチカーペットを敷く場合がある。



よく使う舞台用品



舞台では大きさの単位として尺寸が広く使われる。

1寸=3.03cm、10寸=1尺=30.3cm、6尺=1間=181.8cm

平台 床面を高くしたいときに使う。呼称は尺寸の大きさで言う。
「サブロク」3尺(909mm)×6尺(1818mm)が最も使われる。
他に、「ヨンロク」4尺(1212mm)×6尺(1818mm)、「ロクロク」6尺(1818mm)×6尺(1818mm)、
「サンサン」3尺(909mm)×3尺(909mm)などがある。高さはどれも4寸(121mm)。
平台の高さを変える部材として、木台、箱馬、開き足などがある。
高さのバリエーションとして、7寸単位で刻むことが多い。

木台 長さ1尺(303mm)の3寸(91mm)角。平台を乗せて7寸高の床面をつくる。

箱馬 6寸(182mm)×1尺(303mm)×1尺1寸(333mm)の大きさが一般的。
3面の高さを使って、1尺、1尺4寸、1尺5寸の床面がつけられる。

開き足 中足と高足がある。
中足は平台を乗せて2尺1寸(636mm)、高足は平台を乗せて2尺8寸(848mm)の高さの床面をつくる。
幅は乗せる平台に応じて3尺、4尺、6尺がある。

所作台 日本舞踊や歌舞伎などで使う床材。
大きさは3尺×12尺が一般的。
土足厳禁。

